

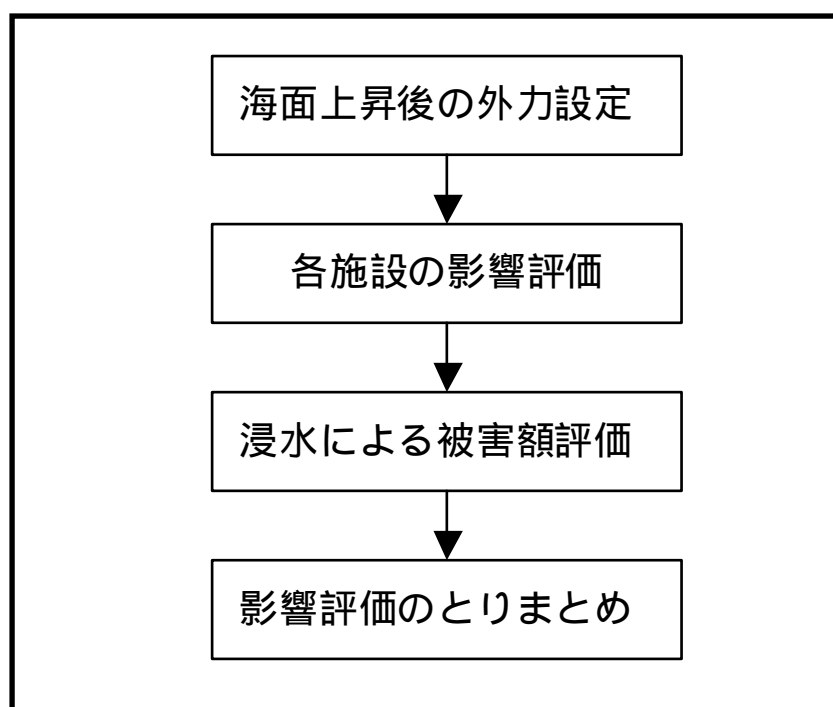
2 . 各分野の影響評価方法

海面上昇により、どの施設がどの程度の影響を受けるか、また、海面上昇後の H.H.W.L まで水位が上昇した場合、どの程度の浸水被害が発生するかについて具体的に評価した。評価項目は前節の表に示す項目のほか、海面上昇後の H.H.W.L.での浸水想定被害額とした。

海面上昇による影響の受け方は施設毎に異なるため、それぞれの施設の影響評価に適した外力条件、および評価方法を採択した。それぞれの分野（施設）の外力設定手法を（1）、評価方法を（2）に示す。

浸水想定領域は、標高メッシュデータをもとに、標高が設定潮位以下の領域全てが浸水するものと仮定した。そして、浸水深（設定潮位と標高の差）に基づく被害率と浸水想定領域内の資産を乗じることにより、一般資産想定被害額を算定した。このほか、公共土木施設、営業損失や清掃、代替活動の費用等の間接被害額も算定し、これらの集計値を浸水想定被害額とした。具体的な被害額の算定は治水経済調査マニュアルに基づいて算定した。

また、現況評価（H.H.W.L.のケース）については、計画諸元を満たしていない未整備区域が残されていることから、現況施設整備状況での評価としたが、水位上昇後の評価（+0.1～+0.9mのケース）については、現行計画施設の整備が完了しているものとして評価した。なお、想定浸水被害額については対策検討において非常に重要な指標となることから、現況施設と現行計画施設完成時の2ケースそれぞれについて整理した。

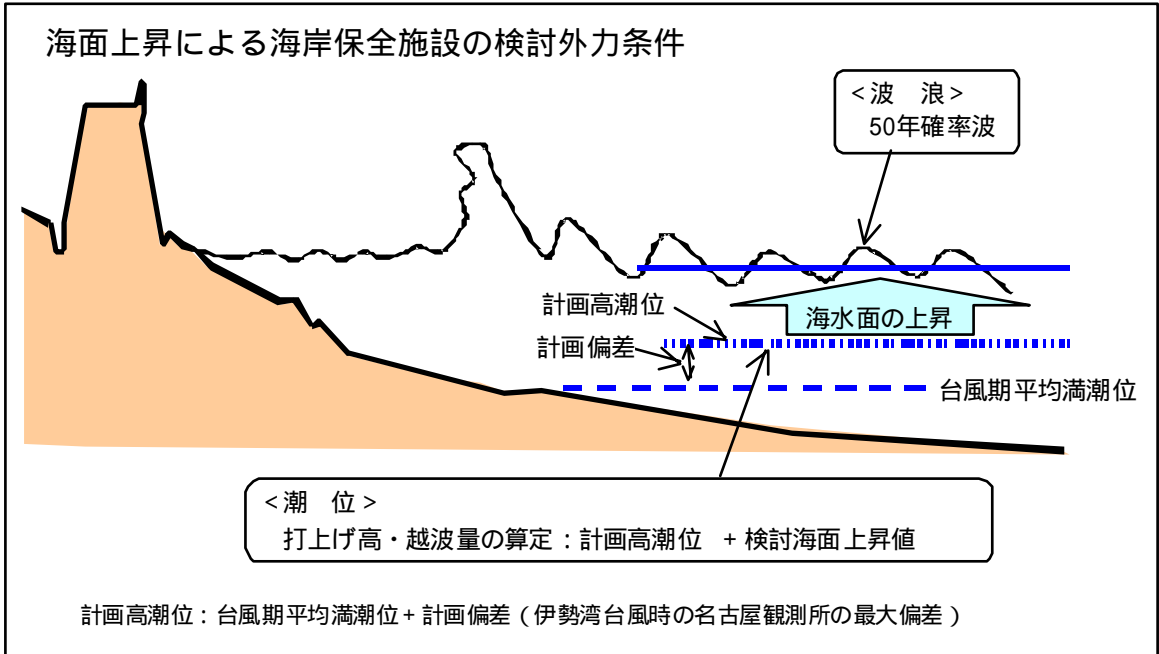


各分野の影響評価方法

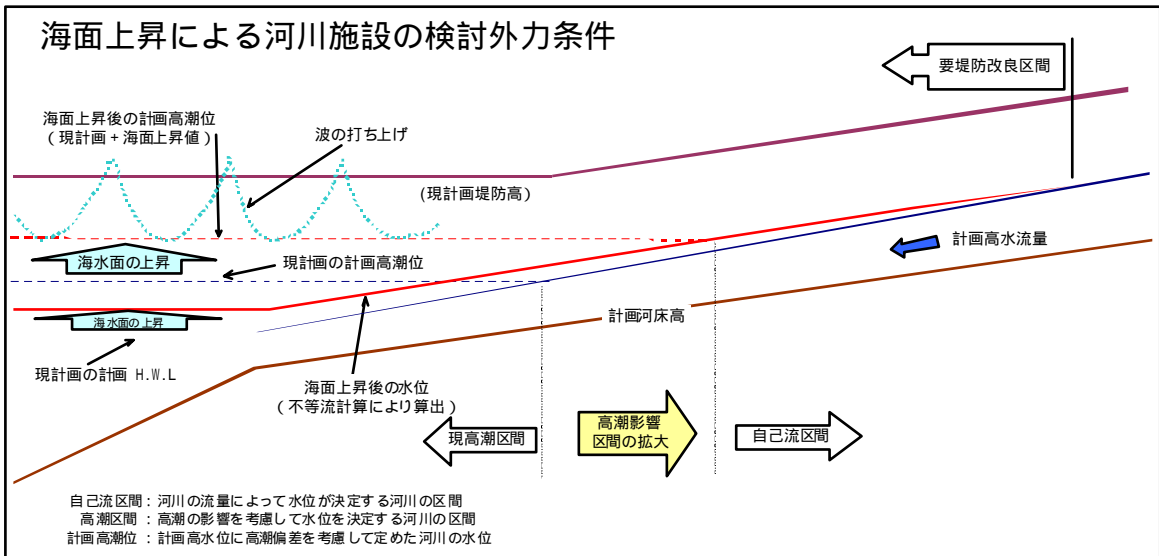
(1) 影響評価する外力条件

各施設に関わる検討においては、下記の通り海面上昇値を見込んだ外力条件とした。

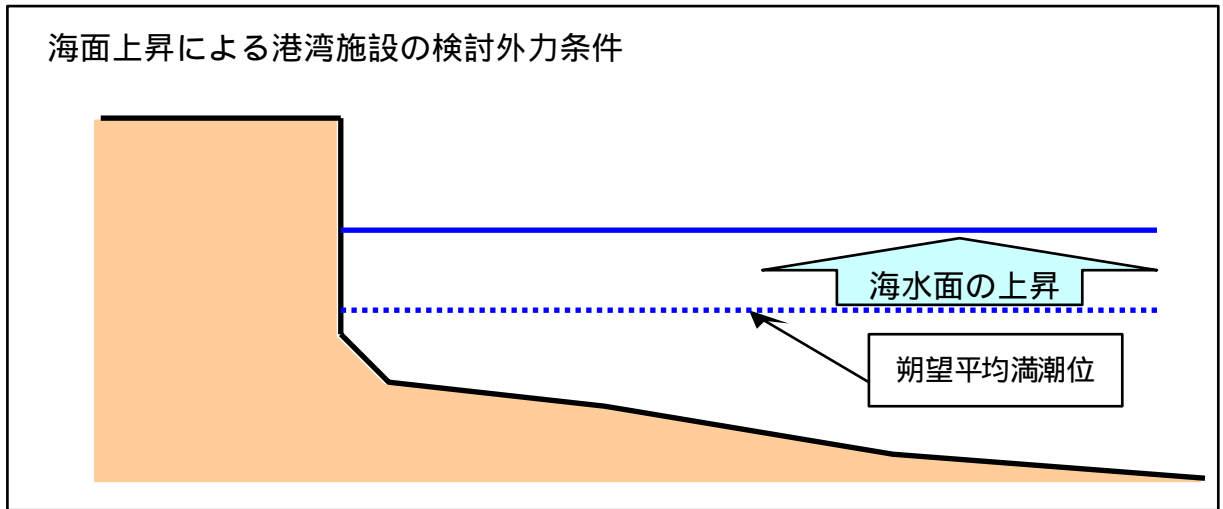
海岸



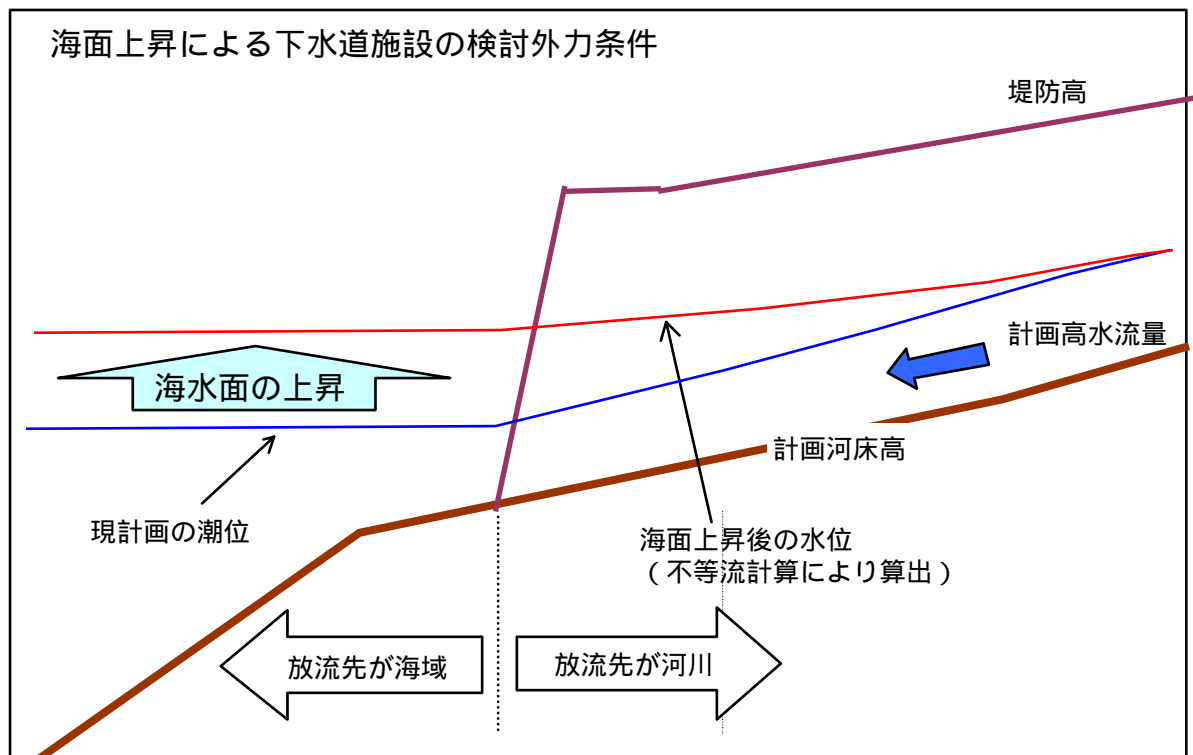
河川



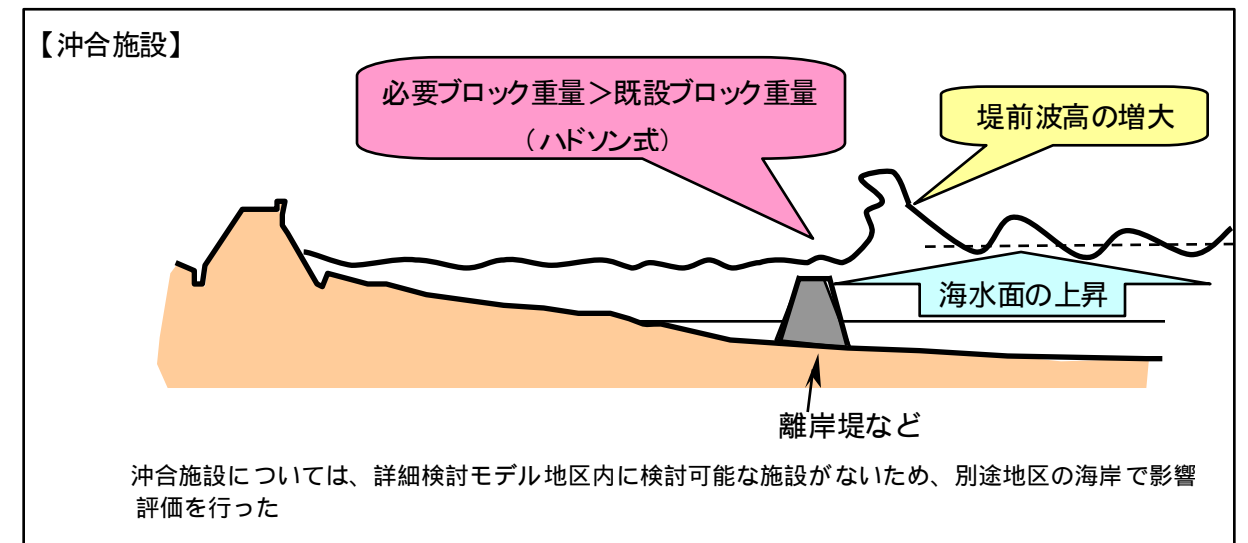
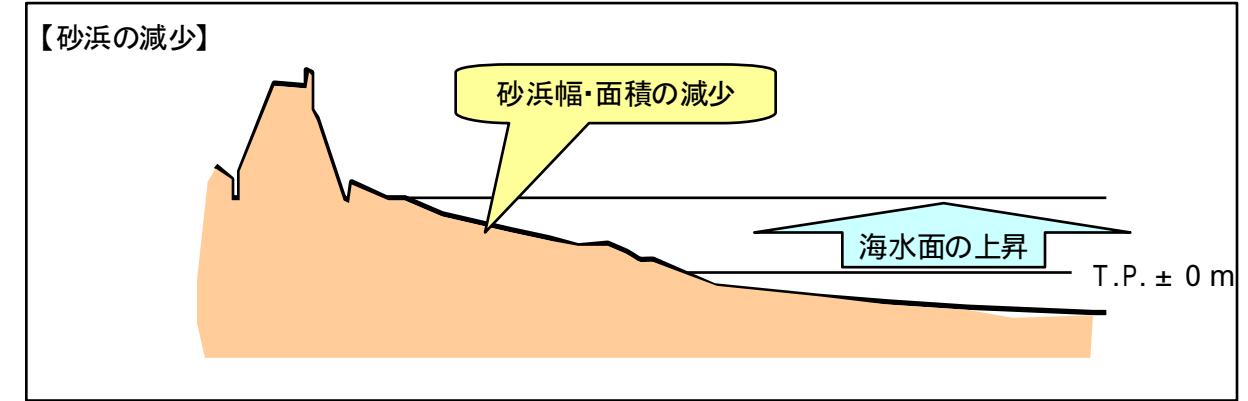
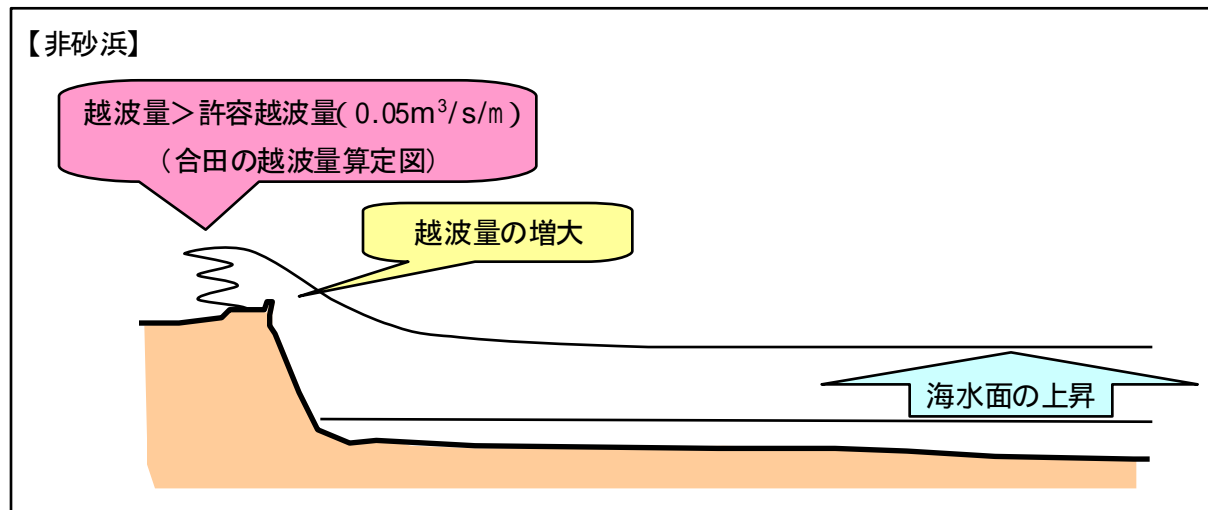
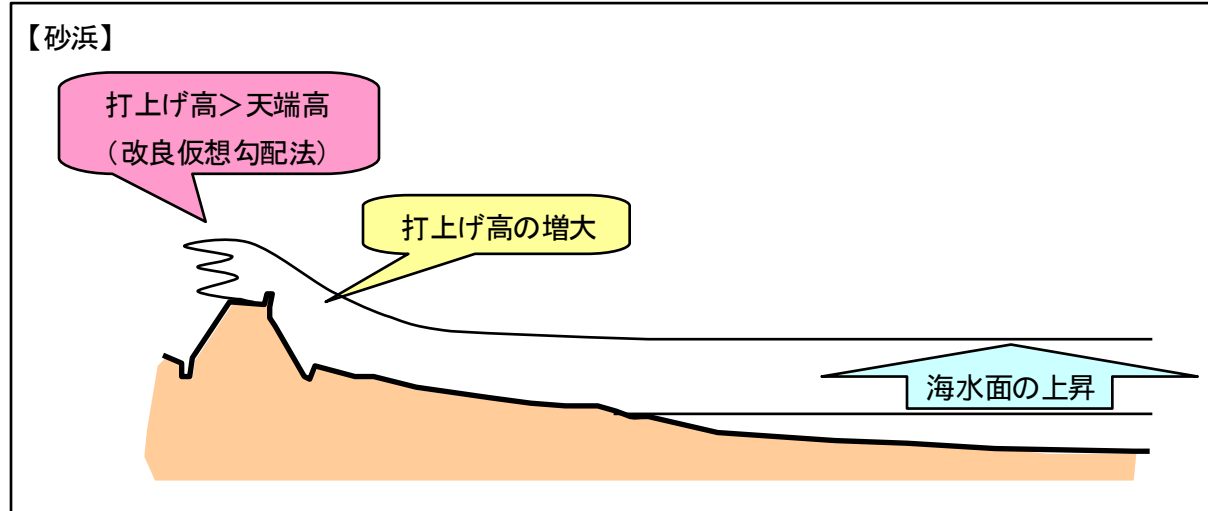
港湾



下水道

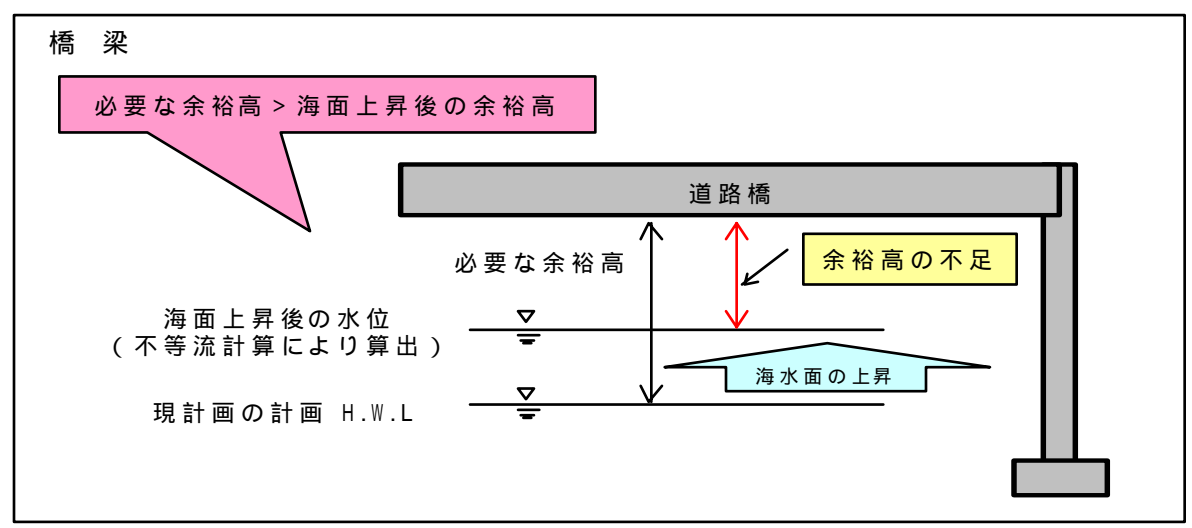
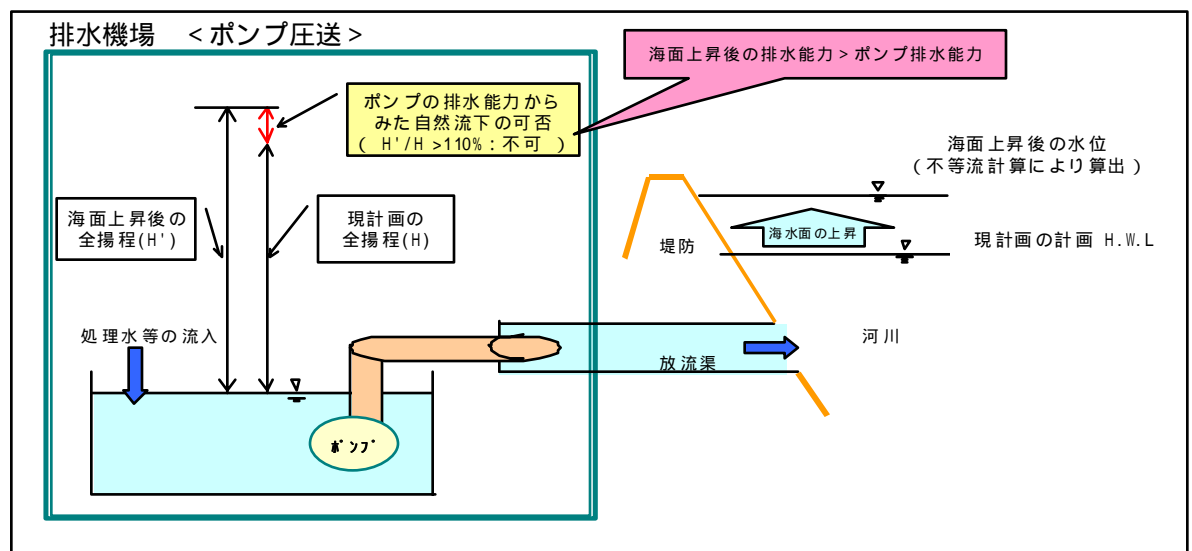
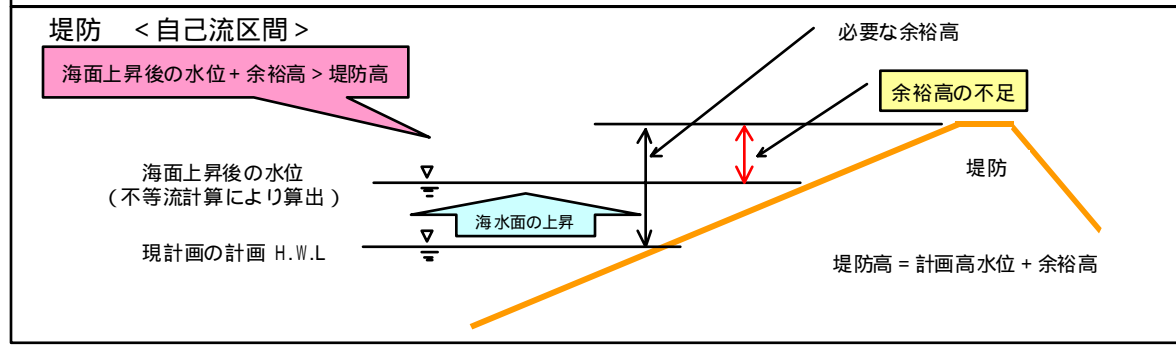
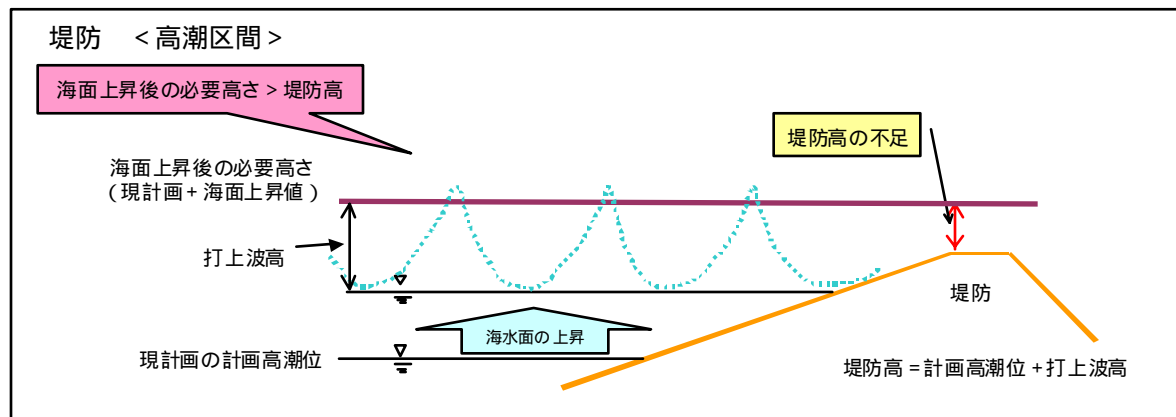
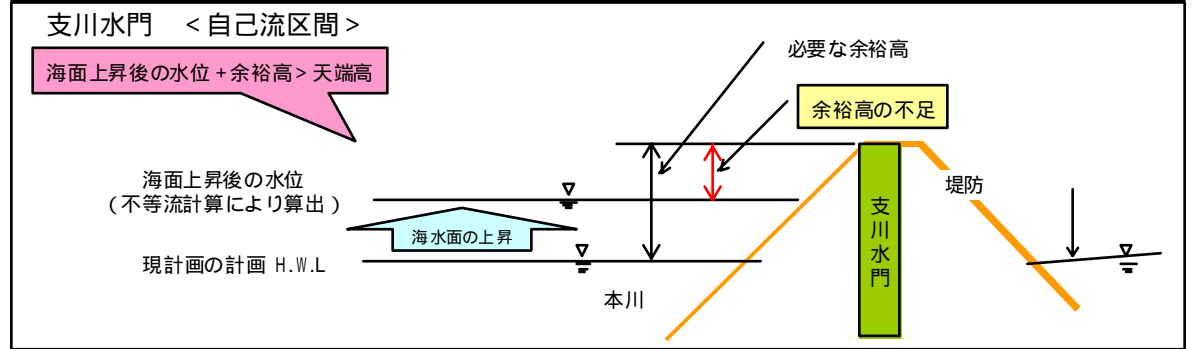
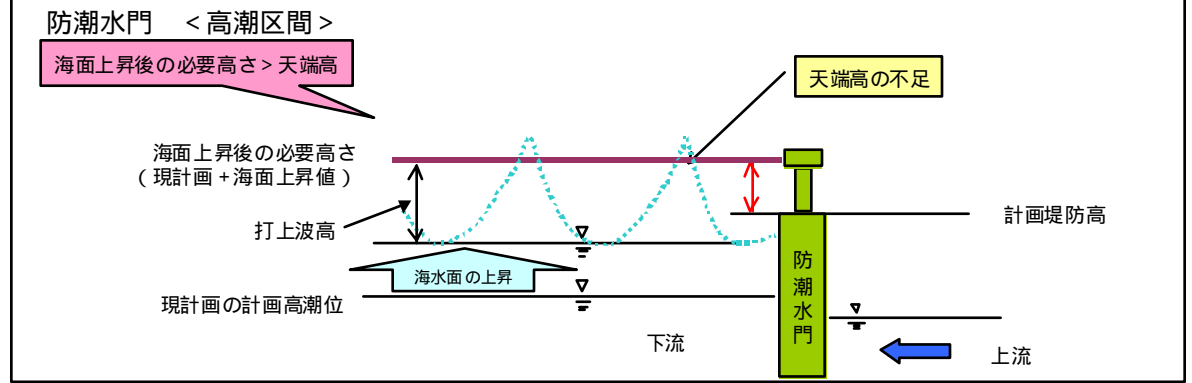
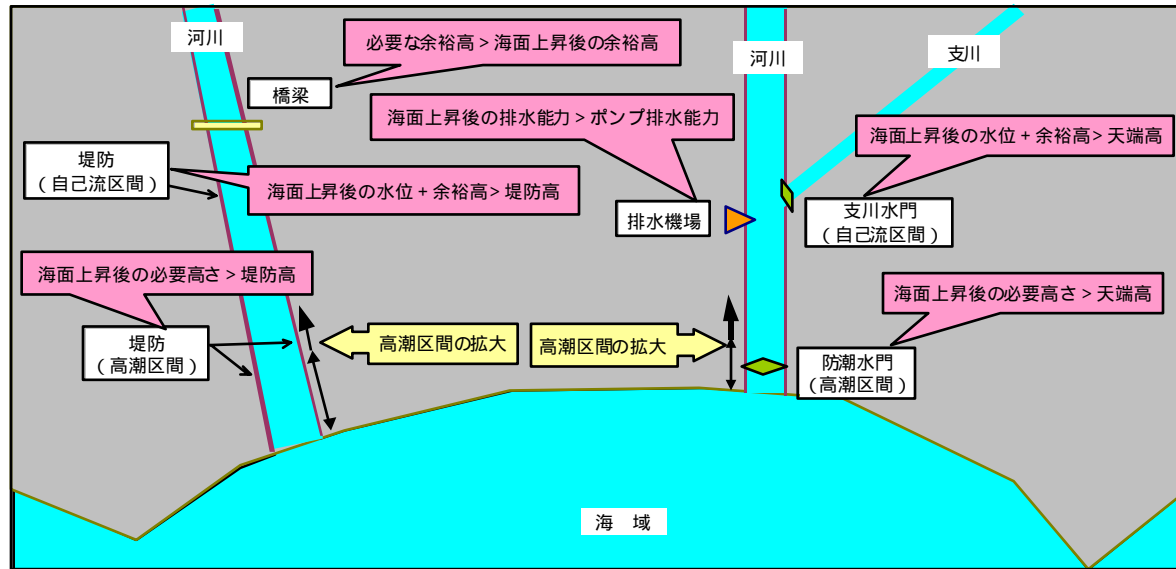


(2) 影響評価方法
海岸



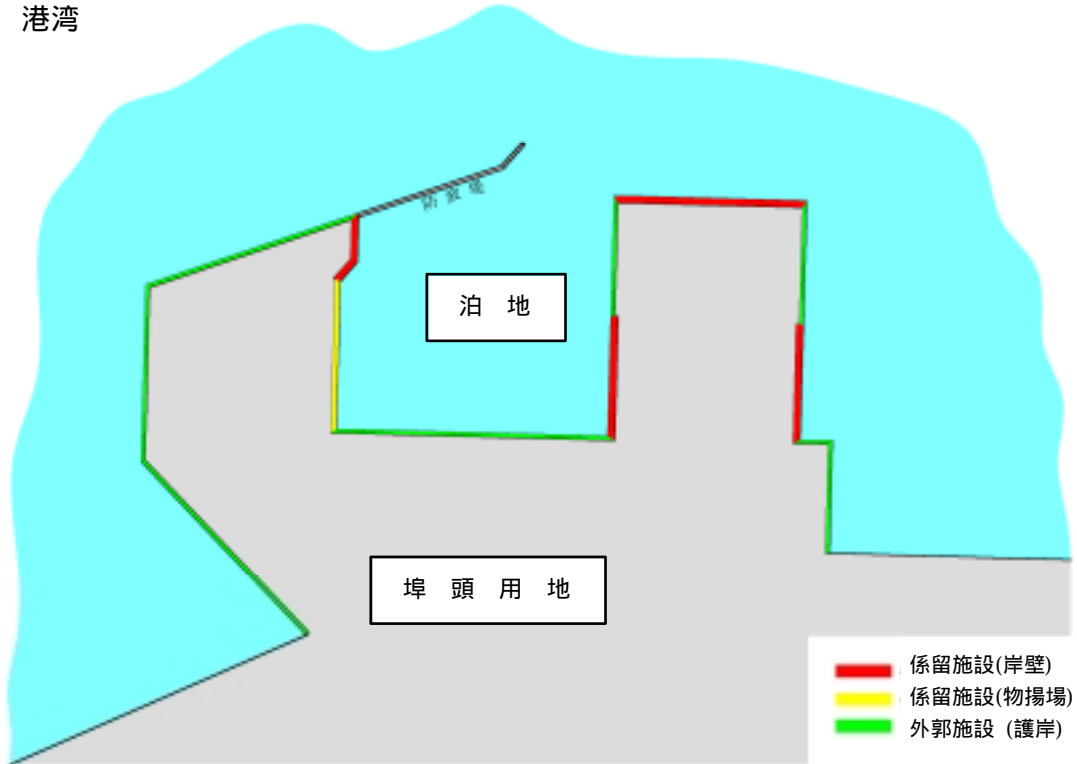
- : 水位の上昇
- : 水位上昇に伴って予想される影響
- : 施設の影響評価方法

河川

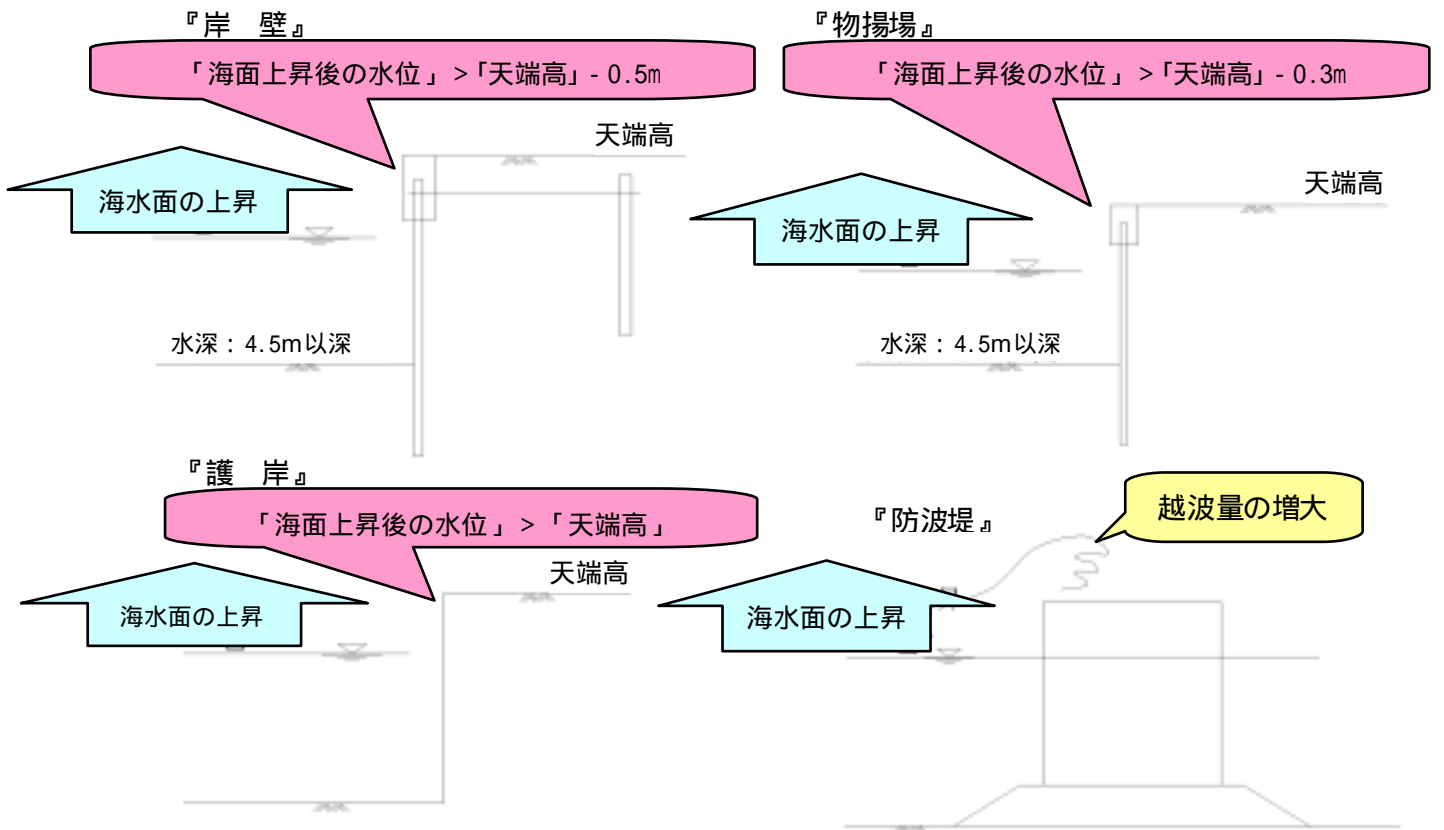


- : 水位の上昇
- : 水位上昇に伴って予想される影響
- : 施設の影響評価方法

港湾

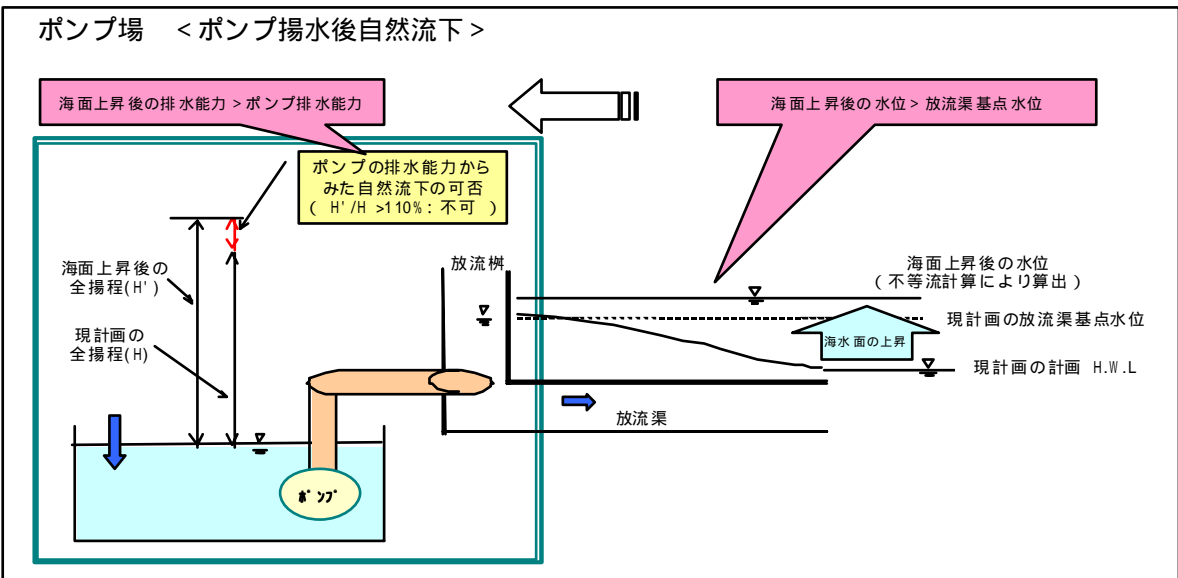
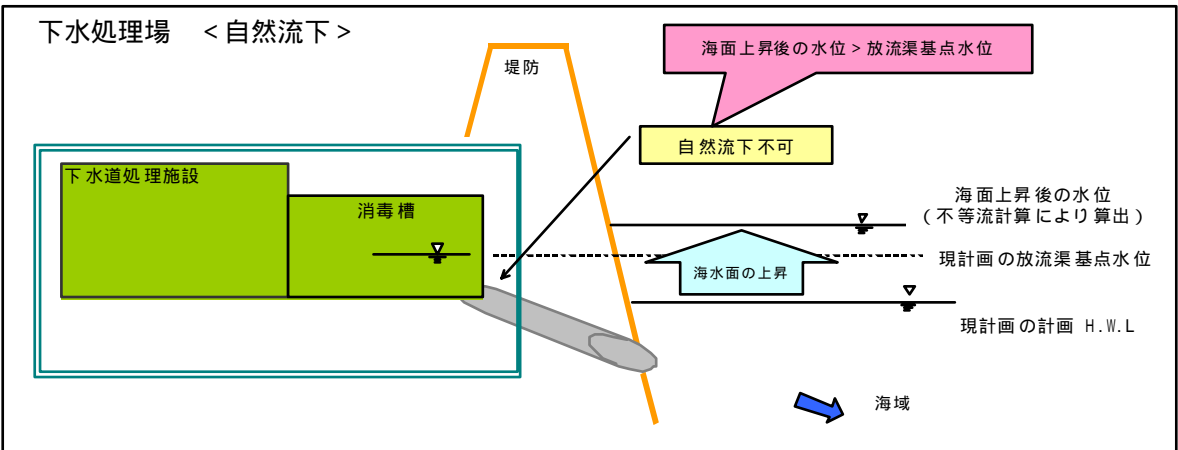
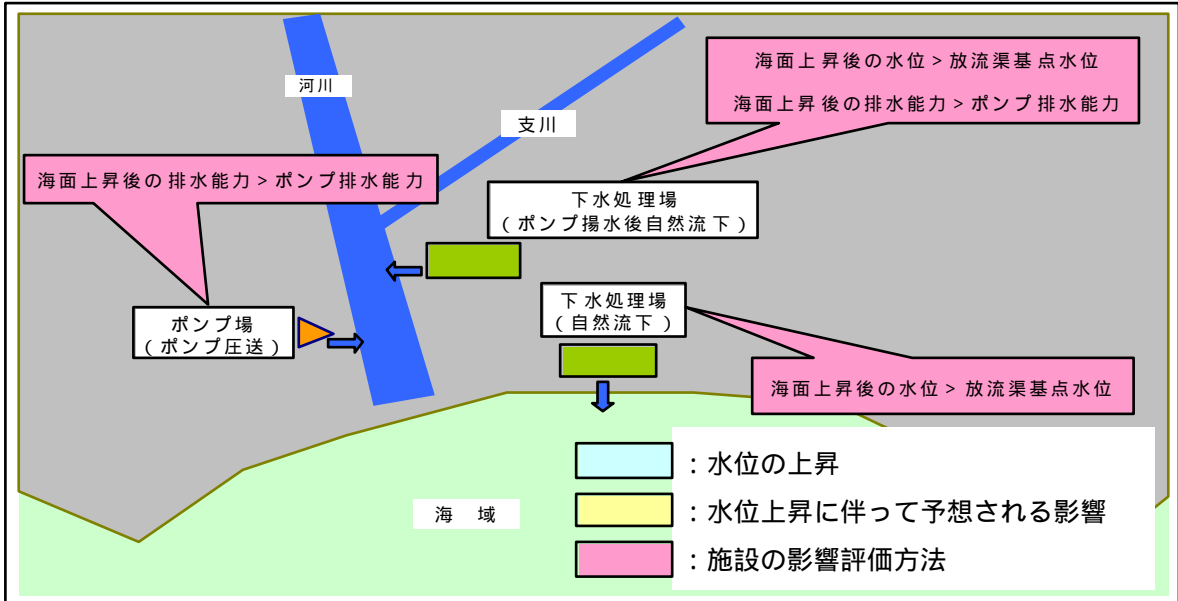


- 係留施設(岸壁)
- 係留施設(物揚場)
- 外郭施設(護岸)



- : 水位の上昇
- : 水位上昇に伴って予想される影響
- : 施設の影響評価方法

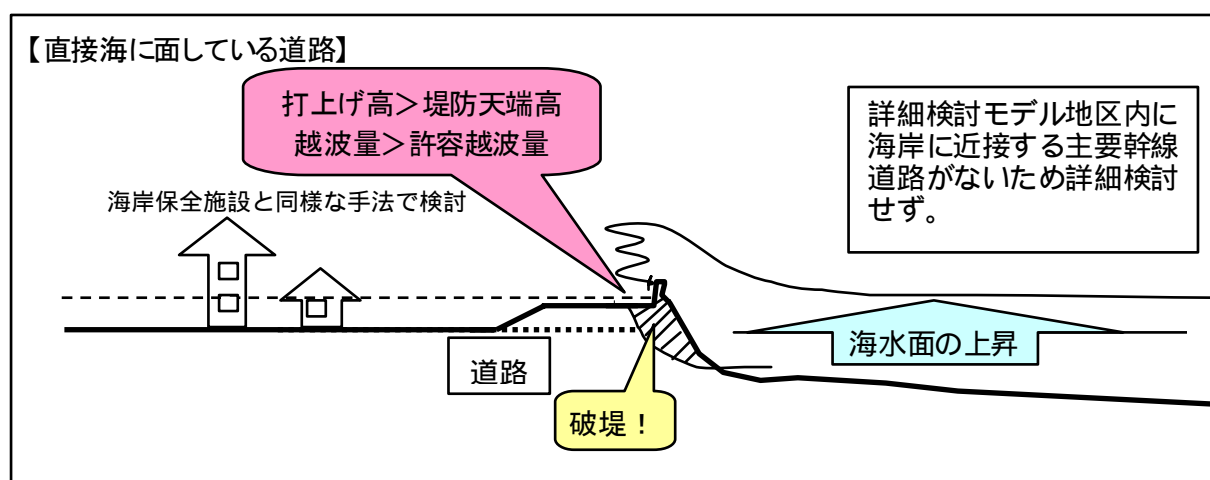
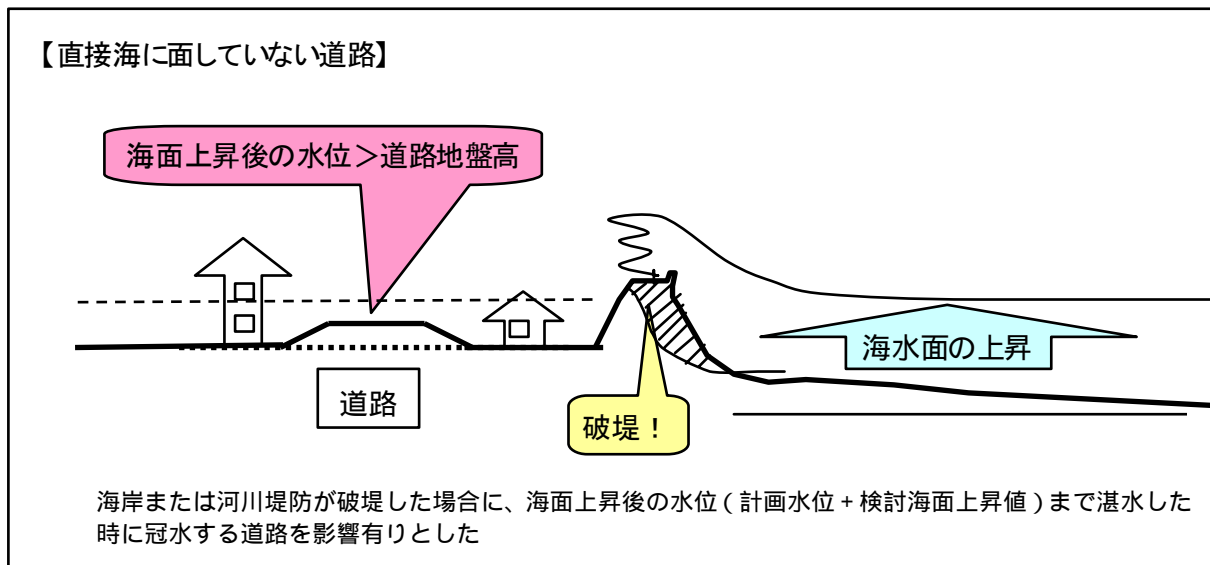
下水道



注) ポンプ圧送は河川の排水機場と同様

注) 海水面の上昇により必要となる放流柵、処理施設等の嵩上げや、堤防の嵩上げに伴う施設の移設は考慮していない。

道路



- : 水位の上昇
- : 水位上昇に伴って予想される影響
- : 施設の影響評価方法